

C. 杭州（11月12日）

<市域の概要>

- ・面積は16596km²、人口は629万人、GDPは1568億元（一人あたり25074元）、工業総生産額は1919.5億元、外国からの直接投資は契約ベースで10.3億ドル。
- ・杭州は隋のころから杭州と呼ばれた浙江省の省都であり、歴史は古い。五代、呉、越、南宋の都として栄えた。西に西湖、南に銭塘江があり、山や川に恵まれた風光明媚な都市である。有名な銭塘江の逆流現象は、9月の満月の時期に起こり、大逆流は5mの高さに達すると言う。
- ・上海からは、高速で2時間の距離にある。

1. 杭州国家高新技术産業開発区訪問

日時：2003年11月12日（水） 14：00～15：00

会場：杭州国家高新技术産業開発区ビル

説明：筆頭副区長 陳春雷氏、商貿旅遊局副局長 陳建祥氏、招商センター副主任 劉莹氏他

（概要説明）

- ・開発区は杭州市内から銭塘江を渡った南側に位置する。銭塘江を渡る4番目の橋を建築中で、橋ができると、市内から開発区まで直線の距離となる。また杭州空港まで車で15分と至近である。
- ・開発区は1990年に創設。1991年には国務院の認可を受け、国家レベルのハイテク産業開発区となる。
- ・開発区面積は85.64km²。海外から400社が投資している。
- ・開発区の特徴として、ハイテク分野が集積していること（通信設備…70%、ソフトウェア関係…15%）が挙げられる。
- ・環境と治安はとてもよい。開発区内に人材センター、コンサルティングサービス、政府関係のサポートサービスを設置している。
- ・今、杭州市内に3つの大学区を設けられているが、その大学区の1つは産業開発区の中にある。
- ・産業開発区内の大学区では7つの大学で3万人の学生が在学している。
- ・大学は日本の専門学校に似ているが、電気・漢方薬・港湾警察などの分野を専門に学んでいる。
- ・今、杭州には33の大学があり、その80%は杭州市内に集中している。その中には浙江大学など有名な大学もあり、ハイテク分野で多くの人材が育っている。
- ・優遇策として、所得税は15%、二免三減の措置もある。



○杭州国家高新技术産業開發区幹部と記念写真

- ・ 杭州も不動産ブームに沸いており、開発区の近くでは、マンションの建築が盛んである。33階建てのマンションが、300㎡の大きさと、価格20000元／㎡で完売したとのこと。通常のマンションでも、2～3年前は、2000元／㎡だったものが、現在では4500元／㎡と倍増している。四番目の橋が完成すると更に値が上がることだろう。

2. 杭州大和熱磁電子有限公司見学

日時：2003年11月12日（水） 15：30～16：00

（工場概要）

- ・ 東京のフェローテック社が親会社。市内にも工場を持つが、開発区内にあるこの工場の売上は約45億円にのぼる。
- ・ 事業所の経営は全てが中国人に任せられ、現地経営が行われている。
- ・ 真空設備用の部品 (Vacuum Accessories、Carbide Saw Blade、Computer Seal)などを製造している。
- ・ 設備として旋盤25台、マシンニングセンター 9 台を所有している。
- ・ 1993年に 9 人よりスタートしたが、現在の従業員は1000人をこえる。特殊なニッチビジネスで、かなり付加価値を高めた製品の提供で成功している。

説明を受けた後、同工場の生産ラインを見学した。

3. 東方通信社

日時：2003年11月12日（水） 16：30～17：00

- ・ 同社は市場競争が激しい中国の携帯電話分野でトップ集団の一角を占める企業グループ。
- ・ 敷地内には 5 つの工場（A～E）と端末製品の実験を行う研究センターが長さ800mに渉って立地していた。
- ・ またB工場は提携しているモトローラ社が生産していた。



○ 杭州大和熱磁電子有限公司の製品を熱心に見学する団員